

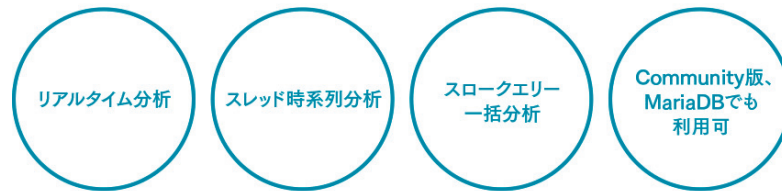
『MySQL』をもっと効果的に活用！！



製品概要

OSS DBとして手軽に使い、スタートアップとしては最適なデータベース『MySQL』ですが、開発・運用を始めると何かと確認しなければならないことがあります。調査に時間がかかり、思いのほか工数がかかってしまうところを、『MaxGauge』があれば簡単に把握できます。

特徴



MySQLを『見える化』し、効率的に使う

情報取得間隔	OS指標・性能指標 1分間隔	スレッドの稼働情報 5秒間隔	実行SQL情報 5秒間隔
スロークエリ	複数のMySQLのスロークエリをまとめて収集。遅いSQLを統合的に管理できます。		
レプリケーション ディレイ	ありがちなレプリケーションの遅延も、リアルタイムでの把握と原因となるスレッドなどを簡単に追跡		
ロック	なかなか追いつかないロックも、依存関係をツリー状に表し見える化。簡単に、トリガーのスレッドが把握できます。		

機能

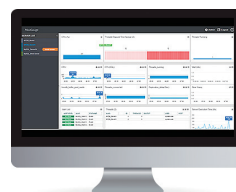
指標・トランザクション・SQLの自動収集・自動計算・グラフ化
『MySQL』の煩わしい部分を簡単かつ適切に見える化
データベースの動きの確認には、各指標の値を定期的に取得し差分の処理量を算出・グラフ化という非常に煩雑な処理が必要となります。『MaxGauge』はこれらをすべて自動で行います。見たいデータベースの日付、時間などを選択するだけで、各指標がグラフ化されトレンドとして見えます。複数の指標の相関関係なども一目で確認できます。

複数データベースのスロークエリをまとめてチェック スロークエリ情報を一括自動収集、ピックアップ

『MySQL』分析で一番のキーになるスロークエリからの問題SQLの特定とチューニング。『MaxGauge』は、数多くあるデータベースのスロークエリ情報を一括収集。また、遅いSQLを、網羅的にピックアップします。またその際の実行計画も確認できます。

秒単位で取得のトランザクション情報 コミュニティ版、エンタープライズ版でもどちらでも利用可能

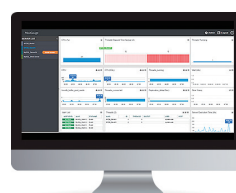
『MaxGauge』は、動いているトランザクションの情報を5秒間隔で取得します。これにより、何時何分何秒に、どのようなトランザクションが、どれくらいリソースを使っていたのかが把握できます。トラブルなどでの状況把握には、時系列での分析が必須ですが『MaxGauge』は、分析に必要な情報を一括で提供します。



- 指標・スロークエリ・稼働トランザクション自動収集
- トレンドグラフ化・タイムスライスでのトランザクション追跡
- スロークエリ収集・分析
- ロック状況の収集・ツリー表示分析



- スロークエリ一括収集
- 遅いSQLの一括ピックアップ
- 問題SQLの実行計画確認



- トランザクションの時系列分析
- 特定時間に実行中のトランザクションヘッドリダウン
- Enterprise Monitorにもない機能
- Community版での利用可能
- MariaDBでも利用可能

販売価格

個別見積

商品番号

1001950

MaxGauge for MySQL